

令和３年度 第１回秋田県環境教育等推進協議会 議事概要

1 日時

令和３年７月１６日（金） 午後１時３０分～午後３時３０分

2 場所

秋田県議会棟２階 特別会議室

3 出席者

○委員（敬称略）

佐藤玲子、田口圭、木口倫、鈴木瑞穂、小笠原正剛、福岡真理子、後藤千春、

和田渉、川村之聡

以上９名

○事務局

温暖化対策課長 高橋佐紀子 ほかに４名

4 議事

- （１）令和２年度環境教育・環境学習に関わる事業実施状況
- （２）秋田県環境教育等に関する行動計画（前計画）の目標達成状況
- （３）第２次秋田県環境教育等に関する行動計画の概要
- （４）令和３年度環境教育・環境学習に関わる事業
- （５）環境教育をめぐる最近の動向
- （６）秋田におけるＳＤＧｓに関する教育事例
- （７）その他

5 質疑応答

- （１）令和２年度環境教育・環境学習に関わる事業実施状況

事務局から説明。質疑なし。

- （２）秋田県環境教育等に関する行動計画（前計画）の目標達成状況

事務局から説明。

○木口座長

こどもエコクラブ会員数の令和２年度目標値３,７００人は、なにを元にした数値か。他の項目は令和２年度の実績と目標値に大きな差異があるが、こどもエコクラブの会員数は１,０００名近く違う。なにか理由があるのか。

○事務局

秋田県環境教育等に関する行動計画（前計画）の３３ページを見ていただき

たい。「6 目標」中の「※1」に記載のとおり、基準年（H22、3,200人）に、過去の推移から推計した年間の増分50人を加えて算出することとしている。

- (3) 第2次秋田県環境教育等に関する行動計画の概要
事務局から説明。質疑なし。

- (4) 令和3年度環境教育・環境学習に関わる事業
事務局から説明。

○福岡委員

資料2、3に関する事務局からの説明で、キーワードとして「高齢者」という言葉が度々出ており、なおかつ、資料3中の「現状と課題」に「高齢化等により、環境教育を担う人材が減少し、地域活動の縮小等が懸念されている」と記載されているが、新規の事業を拝見してもこの高齢化問題が解消されるようなイメージが持てない。例えば新規の事業に今まで育成された方々が活躍する場を設けるといった高齢の方がやりがいを持てるような場があることで、周りの若い方もやってみたいと思うような魅力的な波及があれば理想だと感じる。今年度なにかしら事務局で工夫として考えていることがあれば伺いたい。

○事務局

まさに環境教育を担う方々の高齢化があつてそれが今年の事業にしっかり反映されているかという、なかなかすぐには反映されていないのが実情である。今回の第2次計画の中で、エコマイスターの若返りと目標に掲げられているが、一箇所に集まっていた今までの講習スタイルでは、なかなか若い方が入ってこれないと感じており、若い方が受講しやすいスタイル、受講してみたいと思うようなプログラムを検討中である。また、コロナ禍においてオンラインでの配信等がかなり浸透しており、そういったことを活用できないか、発信の仕方を工夫できないかと検討中である。他の事業についても、第2次計画に基づいてというかたちには正直なっておらず、今年から動き始めているところであり、こちらからも働きかけをして進めていきたいと思っている。

○木口座長

3ページ目の柱2のところでは「あきたエコマイスターネットワーク活動の促進」の募集時期が「ー」となっているが、そういったところで県とNPO等で調整して、活動支援のなかにエコマイスターの活躍の場を設ける等していけば今後発展していくのではないかなと思う。

また、「環境あきた県民塾」において、先ほどネットワークを活用するという話が出たが、それをオンデマンドにして若い人でも気軽に観てもらい、全て講習すると認定するシステムにするなどの検討をされてはいかがか。

○事務局

オンデマンドにするかは今年度検討するところではあるが、いずれその場にかかないと受講できないようなスタイルからは少し何か変化をつけたいと感じている。

○後藤委員

先ほど事務局からご紹介いただいた「白神体験塾」は自然保護課から毎年委託を受けて行っているが、おかげさまで毎年好評であり、今年度も今日の午前中時点で、3つのコース60名定員のところに300名近く申し込みをいただいている。そこで高齢化に関連してだが、それぞれの分野で地元在住のエキスパートガイドの方が指導者として子ども達に体験を積んでいただくという内容になっているが、昨年度から子どもと高齢のガイドの間に挟まれるような形で、県内の大学生に学生リーダーという立場でアルバイトをお願いしている。この先私も含めて段々歳は取っていくわけで、次の世代の育成を切実に感じているところである。そんなところで県内の学生達がこの先こういった事業に興味を持ってもらったり、あるいは県外から来ている学生が秋田に定着してもらうといった理想も含めて大学生をもっと活用していきたいと思っている。高齢化対策に直結はしないが、より幅広い年代に知ってもらいたいという願いで事業を行っている。

○木口座長

300名ほども集まっているということだが、なにか特別なアピールの仕方をされているのか。

○後藤委員

案内のチラシを対象の地域に配布したり、教育委員会を經由して各学校に配布したりしているが、以前に比べて応募者が格段に増えたと感じている。

(5) 環境教育をめぐる最近の動向

事務局から説明。質疑なし。

(6) 秋田におけるSDGsに関する教育事例

福岡委員から説明。

○和田委員

資料3の「推進する施策の柱 1 環境学習の機会・場づくり（主な取組）」に「学校や地域の特色を生かしたふるさと教育の推進」と記載がある。私は50校ほど仕事で学校を訪問したが、全ての学校で力を入れているのが「ふるさと教育」だった。その「ふるさと教育」でいつも思うことは、まず1つが、小さいうちはふるさとの中で体験や活動をしながら、ふるさとが大好きだと感じて

もらうことが一番大事だということ。そして中学生、高校生になるにつれて、ふるさとについて知っていく。そして義務教育の最終段階になってきたら、ふるさとのために何ができるのかと考えるようになる。福岡委員の発表の最後のところで、やはり「ために」、みんなのために、地球のためになにができるのか、そこにむかっていくということでまさに表裏一体の取組だと実感した。ふるさと教育と環境教育とを表と裏でやっていかなければならないと改めて実感した。もう一つは、私は校長を経験したことがあるが、いまの話を子ども達に聴かせたいと思った。例えば環境教育に関して、文科省の通知にもあるとおり横断的な取組がなされているが、縦軸に関しては意外に弱いのではと感じている。つまりなんのためにSDGsがあるのかというところが少し弱いのでは。感覚的なものは学習指導要領で唱えられているので形状はしっかりやっているとと思うが、それを子ども達にどう取り組ませているかという所はまだまだ弱いと思う。そのためのスタートの時点であるいはゴールの時点で小・中・高校と段階を踏んで体系的に教えていかなければならないということを福岡委員の話を聞いて感じた。

○田口委員

生涯学習課で所管している施設がいくつかあるが、その中で私は昨年まで3年ほど県の指定管理を受けてる「あきた白神体験センター」に勤務していた。その中で環境教育に直接関わるのは「ビーチコーミング」しかなく、環境教育に施設がどう関係していけるかと思い本日参加した所だった。昨年コロナの関係で県内の多くの学生が修学旅行でセンターを訪れたが、その子達と話をしていたら、「東京もいいけど初めて登山をした」とか、「初めてシーカヤックに乗ってみて楽しかった」といった話を多く聞き、自然に関心を向けさせることだけでもまず環境教育のひとつになっていくのでは思った。この資料にあるように最終的にはSDGsのゴールのどこなのかというところを明確にしながらプログラムを充実していくと生涯学習課としても環境教育に寄与していくことができるのではと考えた。

○佐藤委員

最近テレビでもSDGsが取り上げられるようになり段々とそういった取組が生活の一部になってきていると思うが、どうしても環境問題は大きすぎる問題だと捉えがちである。ただ、今回の事例をみると中学生が自分でもできるんだと思えるような取組の仕方を工夫しており、人ごとではなく自分で考えることができる取組を教えていただけた。教師の立場で言わせていただくと満遍なく色々と実践はしてみても、特化して教えることがなかなかできず、今回のような専門的な話を聴くことができるのは貴重な機会だったと思った。

○鈴木委員

弊社でもSDGsの取組に先月から動き出し、実際企業としてどういう所からSDGsを始めたら良いのか、実際我々のガス事業がSDGsとどういう関連付けになっているのかというところを、一つ一つの業務を洗い出して、民間企業としてできるSDGsの取組を社員と共にやるべく委員会を立ち上げたところである。我々ができるSDGs、単なるボランティア活動というわけではなくて企業なりの活動を見据えていきたいと思っている。今回挙げた話を参考に一過性のものではなく永続的に社会貢献できるよう取り組んでいきたい。

○小笠原委員

今回「ふるさと教育」の話も挙げたが、秋田県は自然に恵まれている地域であって環境学習という意味ではとても良い教材があるのに加え、鉱石や天然ガスなどの工業面も充実しており秋田でしか学べないことがたくさんある。今の「with コロナ」を生かすような、場に応じた適応策を我々の協議会で考えなければならぬと感じた。

○川村委員

子ども達が小学生から大学生まで段階的に環境に関する学習をしていくことで環境に興味を持っていけば、懸念となっている人材不足の面も解消できるのではと考えている。

○木口座長

民間企業に対応したプログラムもすでに準備されているのか。

○福岡委員

年に数回企業で講演を頼まれるが、ワークがあるものとないものと2パターンで、その時々で求められるテーマも違う。最近だとSDGsやESGを全面的に出してほしいという要望が増えているが、以前は気候変動がメインで、パリ協定の流れからついでにSDGsの紹介を行っていた。3パターン程は準備しておりそれぞれの要望に応じてカスタマイズをしている。また、資料の中で鹿角の旅行企業の方々に紹介したESG金融に関してはまだ認知度が低いのが現状である。大学からは今の社会情勢に対応したものを求められるため、ESG金融の内容を盛り込んだり、環境アセスメントの話を盛り込んだりして講義内容を組み立てている。

○木口座長

ESG金融に関しては、中小企業数が多い秋田の場合、行政が後押しすることも大事だと考える。

(7) その他

○小笠原委員

昨年度、第2次秋田県環境教育等に関する行動計画を策定した段階で、コロ

ナの状況をどの程度組み込んであったのか、それともあまり考慮しなかったのか、教えていただきたい。

○事務局

第2次計画を作る際には体験活動を重視することとし、まずは理想像を掲げるという意味でもあまりコロナのことは意識しないで全体的な計画を策定した。ただコロナの収束の目処が立たなかったため、その後議論を重ね、教育現場でのICT活用等を取り込むこととした。

○小笠原委員

体験型に関して全く異論はないのだが、一方で私の周りでもかなりの部分がオンラインに変わってきている。ただオンデマンドにしまうと、アップロードをするにあたって権利の問題や掲載場所の問題に加えて機器等のトラブルも多くあるためすぐにオンライン化は難しいのではと感じる。来年度計画するのであれば、今年度から徐々に試行し始めた方が良いのではないかと。私自身「環境あきた県民塾」の講師を担当させていただくが、コロナの関係で急に行けなくなるといったことが起こりうるかもしれない。体験型で集まることはベースとしつつも、一部オンライン化していくことも考えた方が良いのではと思う。

○事務局

アップロードの問題に関しても相当な準備が必要だと考えており、今年の県民塾の実際の講座のなかでもし何か試させていただくことがあればご協力いただきたい。

(以上)